

～全国でも珍しい、低地性の高層湿原再生を地域と協働で取り組んでいます～

幌向地区の自然再生

消えゆく湿原、幌向原野

かつての石狩川流域には、釧路湿原を凌ぐ規模の面積を持つ石狩湿原が形成されていました。

そのうちのひとつ幌向原野では、開拓期以降、流域の発展を目的とした治水事業が行われ、都市化や農地化が進むなど、土地利用が急速に進展しましたが、一方で、明治期には約104km²あった夕張川流域の湿原面積は、約0.1km²にまで減少しています。

ほろむい七草の危機 地域固有の湿生植物が減少の一途を辿っています。

かつて幌向原野に生育していたほろむい七草などの湿生植物は、都市化や農地開発により減少しており、現在では夕張川高水敷などに生育するのみとなっています。さらに土地の乾燥化が進み、乾燥状態を好むオオアワダチソウなどの外来植物が侵入しており、地域固有の湿生植物の生育がおびやかされています。



ホロムイ lindou 希少種^{※2}

ホロムイ chigo 貴重植物^{※3}

ホロムイ kug 絶滅危惧Ⅱ類^{※1} 絶滅危急種^{※2}

ホロムイ kougai 絶滅危惧ⅠB類^{※1} 絶滅危急種^{※2}

ホロムイ soge

ホロムイ sou

ホロムイ tsuzji

※ほろむい七草とは、かつて幌向原野で初めて発見され「幌向」の地名を冠する和名を付けられた7種の湿生植物を指します。

※1:環境省レッドリスト ※2:北海道レッドデータブック ※3:緑の国勢調査

取り組み・期待される効果

幌向地区では、湿生植物が生育可能な水分条件を整えた上で、湿生植物を移植しています。環境を保全・再生する取り組みを実施することで、自然環境の多様化や向上が図られるほか、自然とのふれあいや体験学習などの環境教育を通じて、自然環境の重要性や希少性を広く知っていただくことにつながると期待されます。



再生事業のお問い合わせ：北海道開発局札幌開発建設部 江別河川事務所 TEL. 011-382-2358

H30 幌向湿原めぐりフットパス

夕張川幌向湿原再生地を歩いて
豊かな自然を観察しよう！
ミズゴケ移植体験や馬頭琴の演奏会など
楽しみも盛りだくさん！

2018 9月2日(日) 集合・受付 10:00～

集合場所 ▶ 夕張川幌向湿原再生地 **参加無料**

プログラム

10:00～ 受付開始

- 開会式
- フットパス開始

12:00～ 昼食

- 馬頭琴の演奏と喉歌 … 馬頭琴・喉歌奏者 嵯峨治彦
- しめっち落語 … しめっちネット こみゆに亭楽時男
- ミズゴケ移植体験 … 幌向再生ワークショップ
- 初秋の吟行フットパスwith俳句 … 俳人協会会員 藤田ひろし

16:00 解散

おねがい

昼食はご持参下さい。
歩きながら俳句を書き留めるための筆記用具をご用意下さい。

- 〈主催〉ふらっと南幌 ※石狩川振興財団より助成を受けています。
- 〈共催〉石狩川幌向地区自然再生ワークショップ
- 〈協力〉国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部、南幌町
- 〈支援〉空知総合振興局

フットパスの
お問い合わせ 特定非営利活動法人 ふらっと南幌事務局
Phone: 090-3891-6675 (近藤)

